

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センターひゅーるぼん きっず組		
○保護者評価実施期間	令和7年11月22日		～ 令和7年12月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	令和7年11月21日		～ 令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月11日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「地域の他のこどもと活動する機会」について、地域においてのインクルーシブな子どもの育ち支援の場づくり。	地域の子どもたちとの交流プログラム「わくわくきっず」を週1回実施しています。平均8～10名の参加があり、継続した子どもたちとの関わりの中で、地域の中の居場所、子どもたちの育ちの場を作っています。 また、地域のお祭りなどにきっず組の子どもたちが出店するなど、地域との接点を大切にしながら、自分たちの力を発揮していける場面もありました。	わくわくきっずについては、より日常的な子どもたち同士の関わりを促していけるよう、頻度や時間帯の工夫も検討していきます。きょうだい児を含め、制度のみに依らない柔軟な受け入れを試行しながら、学齢期の子どもの育ちを応援していきます。
2	「家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われているか」「保護者同士の交流・きょうだいへの支援がされているか」については高評価で、参加の機会が徐々に増えている。	保護者学習会・茶話会を計画的に実施しました。年代別に関心の高いテーマについて学習会を行い、十数名の保護者にご参加いただきました。また、キャンプ等の行事へ家族、きょうだいにも参加していただける機会をつくり、一緒に活動することができました。	研修会、茶話会については、より多くの方に参加いただけるよう、日時や内容について希望を伺いながら、実施していきます。きょうだいの活動参加についても、引き続き機会の充実に努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができているか。」について、アンケート結果から情報共有や理解が十分でないと感じている保護者もおられることが伺えた。	送迎時など、顔を合わせて保護者とお話をする機会のある方もいますが、子どもが自力通所をしているためそういった機会の少ない保護者もいらっしゃいます。活動写真を公開や、保護者茶話会等でコミュニケーションの機会を作りましたが、日常的なコミュニケーション不足を感じられる方もいらっしゃったようです。	必要に応じて、電話等で丁寧に連絡を取るなど、日頃の様子共有に努め、本人、保護者がより安心して通所できるようにしていきます。
2	「事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思うか」「通所を楽しみにしているか」について「どちらともいえない・わからない」の回答が複数みられた。	通所する曜日が限られている方にとっては、様々な活動プログラムに参加することが難しいことも事実です。曜日によって定例にしている活動もあるため、他の自由活動の時間が限られていると感じる日もあるかもしれません。	子どもたちの思いも聞きながら、人との関わりの中で遊びの楽しさを感じたり、自分の成長を感じたりできる場を大切に作っていきます。また、学校、他事業所との連携の機会をしっかりと作り、子どもたちの様子、興味関心、課題などについて多角的に把握して支援に繋げていけるようにしたいと思います。